

編集部より Vol.14

絶望の今、 希望の種

ついに衆院通過の安保法。どれだけ反対があらうと、法学者や市民の多くが異を唱えようと、なす術もなく議決してしまった。子供たちの未来に禍根を残す事になるであろうこの決定に、多くの人が失意し、すっかり力を奪われてしまったかのようだ。参院も与党多数。「もう、何を言っても無駄だ」というあきらめの境地にいる方も多いかも。いったいどうしてこんな理不尽がまかり通るのか、不思議に思う人も多いだろう。

実は、それには裏があった。しかも WEB サイトでしっかり閲覧できる、あからさまな情報として。

理不尽の理由

それは、この7月14日、まほろば2階で開催された、アンナプルナ農園 正木高志さん・チコさんのトーク&ライブ冒頭での話だった。急遽、PCをネットにつないでプロジェクターで上映してほしいと依頼され、何とかギリギリ準備完了。「CSIS」で検索してほしいと正木さん。そこに、ある重要な情報が掲載されているようなのだ。

CSIS とは、戦略国際問題研究所 (Center for Strategic and International Studies,) の略で、1962年にアメリカ合衆国のワシントン D.C. に設立された超党派のシンクタンクである。(尚、2011年には日本



経済新聞社と共同で「日経・CSIS バーチャル・シンクタンク」の創設を発表し、2012年に立ち上げている) —Wikipedia より

このアメリカのシンクタンクが、民主党政権時代の2012年夏に出した、「日本に対する提言書」がある。驚く事に、そこには原発再稼働へ向けた要求や、ホルムズ海峡の機雷撤去から集団的自衛権に関わる要請、TPPへの参加や秘密保護法に至るまで、現政権が次々に実現してきた重要な法案の骨子ともいえる内容が記載されているのである。

この報告書と前後して、民主党では内部抗争が起こり、最終的には2012年末の総選挙で安倍首相の自民党へと政権交代が行われた。しかも、翌2013年2月、渡米した安倍さんはオバ

マ大統領を訪問する際、このCSIS主催のフォーラムに出席し、満面の笑みを浮かべて40分の講演を行っているのだ。これもネット動画で閲覧可能だ。これは



いったい何を意味するのか。

影の政府の話や陰謀論などと、まことしやかに言われているような印象を持つ方も多いと思うが、こんなにはっきりとわかりやすく、要望書が掲載されているのを見れば、「やっぱりか…」と、深いため息が出るばかりだ。

正木さんの話はいつそう熱を帯びながら、最新著書「empty sky」で詳述しているその背景を紐解いてくれた。それは、アメリカ政府をも支配する大きな力を持ったわずか数%の人々が、世界をコントロールし、この日本に襲い掛かってくる様だった。私たち市民がどんなに反対したってどうしようもないレベルで事は動いていたのだ。まさに絶望的な状況が私たちの目の前に立ちはだかっている。

この話を、安保法案が衆院を通過する前日の14日に聞くことができてよかったと心底思った。でなければ僕も多くの人間同様、怒り心頭で、その矛先を現政府や安倍首相に向けていた事だろう。彼らもまた、より大きなコントロールの下で動いたに過ぎないのだ。私たちの真の相手は別にいる。

小さな希望

ここまで一気に話してくれた正木さん。一息ついて、チコさんとお二人、心安らぐ歌を聞かせてくださった。

そして、ここから先は希望の話。世界を覆うグローバリズムの闇を小さく照らす、希望の光について話してくれた。それは、この世界を変えうるほどの力を持つ、新しい価値観についての話だ。

そもそも、どうしてこんな世の中になってしまったのだろう。そこには西暦1500年代から続く、現代文明に強い影響を与えた一つの思想があった。それは「我思うゆえに我あり」と唱

えたデカルトの二元論—あなたと私は別のも
の。私と自然も別のも—の世界観である。こ
れが強力なエンジンとなり、それを境に、自然
は解体され分解されて、一気に科学は進み、資
本家が台頭して世界中に植民地を拡大したの
だ。こうして、自分とは別である自然や人々を、
徹底的に蹂躪した挙句の果てが、数々の戦争で
あり、フクシマ原発禍に代表される自然破壊だ。

歴史の転換点

その負の歴史の流れが、実は大きく潮目を変えつつある。歴史学者トインビーによれば、500年周期で入れ替わる文明の転換期が今、まさにこの西暦2000年前後なのだという。さらにトインビーは「ある文明が崩壊すると、崩壊の原因となった問題を解決する新しい文明が誕生する」と述べているそうだ。これまで世界を席卷してきた二元論に基づく西洋文明が終焉に差し掛かり、次の世界へとバトンタッチしようとしているのだ。

正木さんは、さらにアインシュタインの言葉を引用した。「問題を生じた同じマインドセットによって、その問題を解決することはできない」。

新しい文明は、これまでの価値観とまったく別のものでなければならない。

それは何か？

正木さんが提示してくれたのは、「すべての存在が一つにつながった生命観」である。

では、その生命観とはどういうものなのか？



ひとつにつながる世界観

一神教に基づく西洋文明は、絶対的な神の存在を中心に据えるがゆえに、神と人との分離を生み出した。それと対極にあるのがインドや中国、日本など東洋文明に見られる汎神論である。
やおよろず
八百万の神々が、私たちのとても身近にいてサポートしてくれる世界観だ。さらに、古くは縄

文や世界各地の先住民族文化にも見られるような、草も木も水も土も、人も、すべてがひとつにつながりあい、互いに支えあっているという観念と価値観がある。(非二元論)

ここに、現代のあらゆる問題を解決する道がある。私とあなたは別々ではなく、私と自然も別ではない。そうは見えないけれど、ひとつにつながっているのだ。

私たちは誰も皆、同じ空気を吸い、生きている。その空気は誰が作ったのか？木や植物たちだ。木は誰が作ったのか？水と土と太陽と土中の微生物たちだ。地球が太陽の周りを一日に一周自転し、365日かけて太陽の周りを回することで、生み出された自然の循環、生命・宇宙の循環が、作ったのだ。そんな奇跡のような大気。私たちは誰一人、この運行なくしては生きられない。まぎれもなく、この自然・宇宙とひとつにつながっているのだ。

現代文明は、この当たり前のつながりをすっかり見失い、道に迷ってしまった。

すべてがひとつなら、私が空気を汚すとき、私自身を汚している事になる。今や pm2.5 や放射能汚染で、きれいな空気すら手に入られなくなっているではないか。

私とあなたがひとつなら、私は戦争には 100%賛成できない。私が殺す敵とは、私の家族であり、私自身なのだ。私が私自身を殺す戦争。帰還兵に自殺者が多いのも無理はない。

「ひとつ」という価値観は、あらゆる矛盾をあぶり出だし、私たちを自然の懷にもう一度立ち返らせてくれる。美しい大地、互いを思いやる美しい心。その古くて新しいあり方は、この文明を一変させるだろう。

本当の敵

ここで、私は気づいた。もし、すべてがひと

つなのだったら、この世界を支配しようとしているグローバリズムの首謀者たちも私自身ではないか。彼らと同じ意識は私たちの中にもあるのだ。さらにスタッフ斉藤恭兵の気づきでもあるが、私たちがまた 1%の意識が肉体を支配し、無理やり従わせようとしているのではないか。確かにそうだ。

そう、真の敵とは自分自身だったのだ。

しかしそれは、この宇宙の仕組みの中で必然・

必要があるからこそ、存在しているとは言えまいか…。もし、そうなら、なぜ、何のために…。

正木さんのお話の中に答えがあった。彼らは、このすっかり古くなってしまった二元論という価値観と、矛盾だらけの文明を、終焉に導くために、それを加速させるための役を演じてくれているのではないかと。

大きな病気が、気づきをもたらし、人生観をすっかり変え、人を再生させるように、社会の中に巣くう深い闇、その病巣もまた多くの人々の意識を変え、世界を再生させるための役割を果たしているのかもしれない。安保法案に立ち上がった多くの市民、若者たちに新しい意識のきらめきを感じるのは私ばかりではあるまい。

世界を操る人々は、自らを悪役として、世界を真の変革へと誘ってくれているのかもしれない。

であるならば、それを恐れ、抵抗することばかりではなく、もう少し別のやり方が効果的かもしれない。新しい生き方を招きよせる方角へと舵を切り、美しい世界を創造する方向へと意識の力を向ければよいのではないか。

新しい生き方

では、その新しい価値観に基づく世界、暮らしはどのようなものだろう。想像してみよう。



もし、すべてがひとつだと皆が理解したならば、私が本当はあなたなのだとしたら、そして、私は自然であり、この地球そのものだとしたら・・・。

きっと誰も皆、自分を愛するように他者を愛するようになるだろう。そして他者をいたわるように自分自身をも愛することだろう。自然を愛し、花や木や動物たちを愛し、小さな虫けらにも愛を感じるかもしれない。作物は愛を持って育てられ、それを食べる私たちも高いエネルギーで満たされるだろう。人は誰も自由に、自らの能力を自分自身と他者のために発揮し、歓びと共に生きることだろう。人を縛り規制するどんな法律も、決まり事も必要としないほど、私たちは本当の自分自身に気づき、互いを認め合い、自身をも認めて生きるだろう。そんな心からの幸せに満ちた暮らしは可能だろうか？

私は可能だと信じる。それは、お金やモノに頼るグローバリズムとは無縁だから。私たちの心のあり方一つ。新しいマインドセットを受け入れ、それを生きはじめればよいだけだから。そんな生き方・考え方にシフトする事。それが私たちにできる世界への最大の貢献ではなからうか。

小さな一歩が生み出す力

まほろばの掲げる小国寡民も、黄金比の組み合わせで一点から無限に広がるハートが出現する「無限ハート」も、小さな中心点の大切さを示唆してくれている。ささやかに30年続けてきたその歩み。私たち一人ひとは、ちっぽけだけど、その小さな一人は大きな宇宙とひとつにつながっているのだ。一人の小さな気づきと行動は、必ず全体に波及する。すべてひとつだから、どんな小さな一歩であっても必ず世界に伝わる。

その一人が少しずつ増え、この地上を覆ったならば、どうなるだろう。地球に灯った小さな灯りは、やがて世界を包む大きな光となる。地球は慈愛の光で輝くのだ。私たちにはその力が与えられている。

正木さんのお話は、そんな希望を抱かせてくれ

た。私たちの心に蒔かれたその小さな種は、きっと平和の大きな樹木となり、やがて満開の花を咲かせてくれるに違いない。私たちは固いさなぎから脱皮し、蝶として楽しく舞うのだ。

それは私たちの毎日の、小さな一歩からはじまる。

(写真/文 編集部 島田 浩)

※講演会の写真は、工藤元子撮影



慈しみ

作詞：お釈迦様？ 作曲：正木さん

能力(ちから)あり まっすぐ 正しく 言葉やさしく
柔和で 思い上がりの ないもので あるように
足ることを知り 質素で 雑務少なく 簡素にくらし
清らかで 聡明で 高ぶらず むさぼらず
すべての 生きものたち 幸せであれ 幸せであれ

母親が ひとり子を いのちをかけて まもるように
そのように いっさいの 生きものたちを 慈しめ
立ちつつも 歩みつつも 坐っていても 横になっても
眠らないで いるかぎり このところを しっかりとめて
すべての 生きものたち 幸せであれ 幸せであれ

(小冊子『empty sky』には、もっと詳しく、より具体的かつ叙情的に、この世界の真実が描かれています。一冊300円で新装版が出ました。ぜひご一読下さい。また、その他の著書と「慈しみ」が入ったCDも入荷しています。あわせてご覧頂ければ幸いです。)

